

# 令和元年度 組織・連携委員会だより

N O . 1

北海道PTA連合会

令和元年7月3日（水）発行

令和元年6月29日（土）に第1回委員会が開催されました。その内容をお知らせ致します。

1. 組織・連携委員会では、令和元年度、次のような内容で研究を進めていきます。

## 1 研究テーマ

『コミュニティ・スクールにおけるPTA活動・組織の在り方』

## 2 研究の視点

研究テーマを追究するためには、委員会がこれまでの成果を踏まえ、各PTA活動の推進に役立つ有効な情報を主体的に発信することが重要であることから、次の2つの視点に基づき活動を進める。

\*コミュニティ・スクールへのPTAの関わり方

\*持続可能な子育て支援体制におけるPTA組織の在り方

## 3 研究の内容

### (1) これまでの成果と具体的な課題

#### 【これまでの成果】

- CS（コミュニティ・スクール）制度について理解が深まることにより、学校や子どもたちを支援する体制として、PTAによるCSへの関わり方を考えるきっかけになった。
- 平成29年度に実施したCSアンケートにより、各地域における学校・家庭・地域の連携・協働体制の実情を把握することができた。
- CS制度を活用して、地域が一体となって学校を支える仕組みを構築することにより、PTAが主体性を発揮して、より一層の活動の充実を図ることができることを認識できた。

#### 【具体的な課題】

- CS制度を採り入れている地域が身近にないために、制度内容について十分に理解する必要がある。
- PTA組織とCS組織の相違点等について、より一層理解の促進を図る必要がある。

### (2) 今年度の研究の方向性

上記の課題の解決に向け、今年度は、次の3点を中心に研究協議を進める。

ア CS制度におけるPTAの位置付けについて

地域とともにある学校づくりを目指して全国的に拡充するCS制度を活用する中で、各PTAが、どのようなアプローチで活動を広げ、子どもや学校を支える体制づくりを構築するののかについて、研究を深める。

イ 今年度研究大会に向けて

札幌大会において、CSとPTAの関わり方について、方向性を明らかにするための提言発表を行い、全道のPTAに発信する。

ウ 令和2年度に向けて

令和2年度に向けて、PTA組織の在り方について検討し、PTA活動の意義や組織体制の確保に向けた有効な手立てについて検討する。または、検討するための情報等を収集する。

**2. 次の方々が道P連組織・連携委員会の研究を推進しています。（敬称略）**

委員長	②菊川 哲平（副会長・上川南部）	
副委員長	①後藤 一樹（副会長・石狩）	
	山村 健史（副会長・道小校長会）	
	鈴木 喜代志（教師代表・小樽市立忍路中央小学校長）	
委員	①廣瀬 堅一（小樽市）	②堀川 剛史（上川北部）
	②安藤 英樹（旭川市）	②米津 功司（宗谷）
	②高田 英雄（留萌）	③佐々木 高（渡島）
	④能登 浩（日高）	④小川 克彦（胆振西部）
	⑤笹森 伸治（オホーツク中部）	⑤鈴木 裕司（釧路）

\*①②③④⑤は、ブロックを表しています。

\*各委員会は昨年度まで「常置委員会」として活動してきました。今年度は「委員会」として活動します。これまでの取組は、道P連のホームページの「委員会」をご覧ください。

北海道PTA連合会事務局

〒060-0001 札幌市中央区北1条西3丁目3番地22 STV時計台通ビル6階

TEL (011)251-6937 FAX (011)210-0929

Eメールアドレス [info@hokkaido-pta.jp](mailto:info@hokkaido-pta.jp)